



より一層の経営改善に努めていきます。

当院は、昭和23年3月江田町外三ヶ村組合立国民健康保険共済病院としてスタートし、令和2年3月に創立72年を迎えました。病院理念である、医療を通じて住民が安心して生活できる社会づくりに貢献することを目標に、公的医療機関としての役割と責務を果たし、公営企業としての効率性を高めるよう職員一丸となり努めています。



患者数等の状況

令和元年度の入院患者数はのべ19,265人(一日平均52.6人)で、前年度と比較し、1,845人(一日平均4.9人)の増加となり、病床利用率は57.8%(前年度52.4%)となりました。外来患者数はのべ23,585人(一日平均97.1人)で、前年度と比較し191人(一日平均0.3人)の減少となりました。

また、夜間・休日の救急患者の受け入れ人数は1,605人(前年度1,733人)であり、うち救急車搬送人数は116人(前年度128人)でした。

なお、健康管理センターでの健診受診者延数は2,453人(前年度2,617人)、居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数は1,489件(前年度1,463件)、訪問看護ステーションの利用者数は508人(前年度501人)、延訪問回数は2,615回(前年度2,769回)となっています。

令和2年度は、これまでの経営の効率化等に加えて、平成29年度に策定した「新公立病院改革プラン」に沿った数値目標に向かって、さらなる経営の改革に取り組んでいきます。

■用語の説明

経常収支比率

経常的な経営活動に伴う収益から費用を差し引いたもの。この数値が100%を超える場合は経常黒字、100%未満であれば、経常赤字を示します。

(経常収益/経常費用)×100

医業収支比率

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様にこの比率が100%以上であることが望ましい。

(医業収益/医業費用)×100

職員給与比率

病院の職員数などが適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営のポイントとなります。

(職員給与費/医業収益)×100

病床利用率

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合は、病床規模が適切か否かを検討する必要があります。

(年延入院患者数/年延病床数)×100

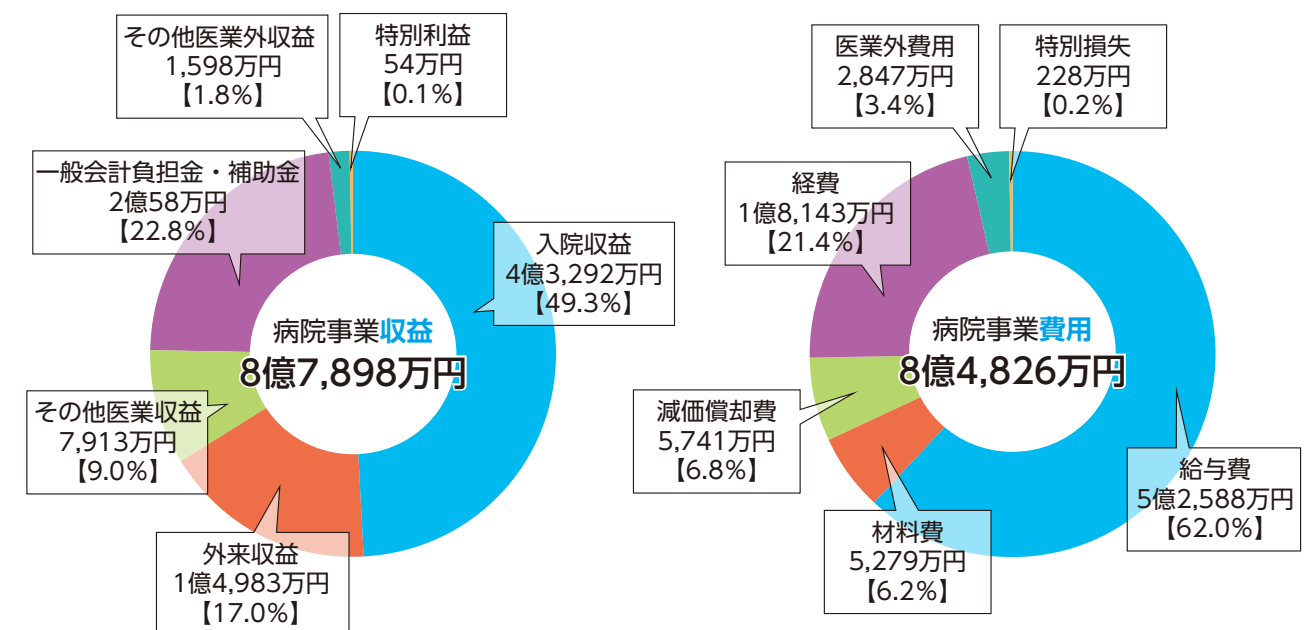
■平成30年度との比較

		令和元年度	平成30年度
患者数	入院	19,265人	17,420人
	外来	23,585人	23,776人
診療単価 (患者1人・1日当たり)	入院	22,471円	22,706円
	外来	6,353円	6,463円
病床利用率		57.8%	52.4%
平均在院日数		17日	19日

■改革プランの実績

項目	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	目標値
経常収支比率(%)	91.6	98.5	96.5	99.7	103.8	100以上
医業収支比率	81.3	88.2	88.6	90.8	92.2	90以上
職員給与比率(%)	78.2	71.2	73.1	71.1	69.8	69以下
病床利用率(%)	66.9	71.7	57.3	52.4	57.8	83以上

※項目は、経常収支比率、医業収支比率、職員給与比率、病床利用率を掲載
注) 目標値は、平成29年度から令和2年度までの「新公立病院改革プラン」に沿った目標値となっています。



令和元年度の概況

令和元年度の病院事業は、病院間の連携強化に伴い入院患者数が増加し収入増につながりました。

入院収入は、前年度比37,382千円増の432,919千円となり、外来収入は、前年度比3,832千円減の149,829千円となりました。

一方、支出は経費が前年度比1,269千円減の130,186千円、給与費は前年度比10,950千円増の573,179千円、減価償却費は前年度比8,149千円増の57,411千円、医業外費用は前年度比619千円増の28,441千円となりました。

令和元年度は、目標に近い患者数を確保できたことで入院及び外来収入が33,550千円増に加え、不採算地区病院に対する特別交付税の単価の見直し等により17,248千円増し、その結果、経常収支比率改善され、総収益878,984千円、総費用848,266千円となり、差引き30,718千円の黒字決算となりました。